

介護老人保健施設しおさい

症 例 概 要 利用者：70代 女性 要介護2)

利用期間 : 令和5年8月末～入所を利用中

病 名 : アルツハイマー型認知症、うっ血性心不全、右下肢静脈瘤、ESBL保菌

既往歴 : 右乳癌、右大腿骨転子部骨折、尿路感染症

経 過 : 他施設のショートステイ利用中、転倒により西伊豆健育会病院受診され、右大転子部骨折と診断。同院で手術のため入院。入院時より入院生活を好まれず食事やリハビリに対して拒否反応強く、入院中、尿路感染症発症。その後当施設へ入所されたが、様々な場面でトラブル勃発となり、集団生活が出来なかった。しかし、ご本人に寄り添った関わりことにより改善が見られご本人らしい生活が送れるようになった事例。

内 容

他施設のショートステイ利用中、自室で転倒され横になっているのを発見される。西伊豆健育会病院に搬送され、右大転子部骨折との診断を受ける。手術目的で同院にそのまま入院されるが、ご本人が入院生活を好まれず、食事やリハビリを拒否されていた。栄養状態も悪く、入院中に尿路感染症発症される。当施設へはご本人希望にて入所される。

生活歴として6年前まで自動車整備事務をされていた。元気な頃は趣味で花作りを楽しまれていた様子。ご家族は食事を食べるようになって欲しいことと、自分でトイレに行けようになれば自宅での生活が可能と話される。入所当初は情報にあったように食事やリハビリなど様々な場面で拒否が見られ、周りの利用者や職員に対しても攻撃的な面が多くみられ、集団の中での生活は困難な状態であった。信頼関係を築く為にも声掛けをしコミュニケーションを図るなどしていましたが、困難を極めていた状況。介護、看護、リハビリ職など多職種でアプローチはかけていましたが強い拒否反応と興奮状態により、いい手立てが見つけられない状況でした。しかし、諦めず多職種でアセスメントし直し、外出やご本人が好まれるような個別ケアを行った結果、精神状態は落ち着かれ、拒否反応に関しては波は若干あるものの落ち着かれており、しおさいの集団生活の中での生活が取れるようになり、ご本人らしい日常生活が送れるようになった事例です。